

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和4年11月4日　第31号

祝・市制100周年

　　先日の１１月１日をもって、岸和田市は市制100周年を迎えました。

実は、これはすごいことで、大阪府下では、大阪市、堺市に次いで三番目の快挙なのです。

　　100年前、岸和田を中心とした大阪南部は、経済的に発展し、当時「大大阪時代」と呼ばれていた大阪をリ－ドする存在でした。

　　その余韻は、今も続いていて、現在大阪府下で市立の高校を持つのは、大阪市がすべての市立高校を大阪府に移管したので、堺市と東大阪市と岸和田市の3つの都市だけになりました。

岸和田市立産業高校が岸和田のそれにあたります。

　　社会科の授業でも習ったと思いますが、工業の発展は、繊維工業などの軽工業から石油や自動車などをあつかう重工業に発展していくのが一般的です。日本の工業化が始まったとき、その繊維工業を中心とする産業を多く抱えていたのが岸和田市周辺の泉州地域でした。

　　時代は流れて重工業から半導体を中心とする情報産業が産業の中心となっています。この世界的な流れに岸和田市はじめ日本全体が取り遅れました。「失われた３０年」なんて言い方をする人がいます。３０年ほど前、インドの小学生は九九で９×9までではなく14×14まで覚えさせていると聞きました。「そんなことしてどうするねん」と高をくくっていましたが、ICT分野の人材は、現在圧倒的にインドのほうが優秀でしかも人数もたくさんいます。国家的な教育の取り組みの差が、現在の結果につながっています。市制200周年の時には、再び岸和田市が脚光を浴びていることを願います。